

PEACE
BOAT



Global Voyage for a Nuclear-Free World
-Peace Boat Hibakusha Project-

2009年4月にオバマ米大統領が
「核のない世界をめざす」と宣言して以来、
核廃絶へのかつてないチャンスが到来しています。
いま世界の核がどうなっているのかわかり、
ヒバクシャの声に耳を傾け、考えましょう。
いま、行動のときです。

核のない世界へ 今できること

voyage

—この航海に、あなたもご参加ください。



核戦争なんて過去の話？ とんでもない！

長崎平和公園の像



いまだに2万発以上

いま世界には、約2万2000発の核兵器が存在します(2010年7月現在)。人類をくり返し殺しても有り余る数です。その95パーセント以上はアメリカとロシアのものです。イギリス、フランス、中国は100～数百発ずつもっています。以上の5カ国は、核不拡散条約(NPT)で「核兵器国」と認められています。国連安保理の常任理事国と重なる5カ国です。

NPT非加盟のイスラエル、インド、パキスタンも事実上の核保有国です。朝鮮民主主義人民共和国(北朝鮮)はかつてはNPT加盟国でしたが、2003年に脱退を宣言し、その後核保有を宣言しました。

冷戦の遺産が今でも

東西冷戦の時代にアメリカとソ連は核軍拡競争をくり広げ、世界の核は1980年代には6万発にまで上りました。冷戦が終わり90年代に入ると、核の数は減りました。アメリカにとって、ソ連という“敵”はいなくなりました。しかし今度は「テロ支援国家」など新しい“敵”に向けて核を使うという動きが出てきました。

2010年4月、米ロは戦略核を7年かけて各1550発にまで減らすという条約「新START」を結びました。それでもなお、米ロの核の多くは冷戦時代と同じように数分で発射できる状態で配備されています。保有各国は、いまだに核が安全保障の要だとして、手放そうとしません。むしろ莫大な費用を投じて、核の近代化のための研究・開発を続けています。



世界に広がる核の危険



広島平和記念資料館提供 米軍撮影

核拡散の波

新たな核保有の動きも広がっています。**南アジア**では、インドとパキスタンが1998年以来、核軍拡競争を続けています。両国は長年の国境紛争を抱えており、たいへん危険な状態です。

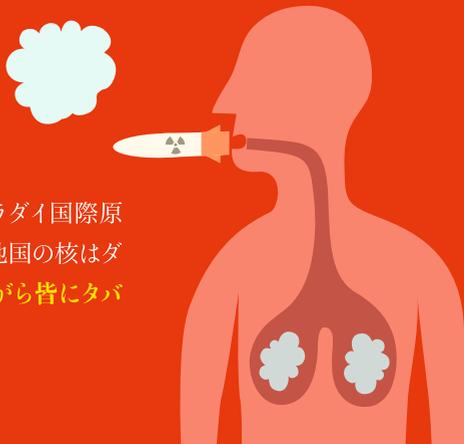
中東では、イスラエルが1960年代から核を保有しています。これに対立するイランの核開発が近年問題になっています。イランは原子力の「平和利用」だと主張していますが、そのウラン濃縮の技術は核兵器にも転用できます。

東北アジアでは、日本の隣国・北朝鮮が核やミサイルの開発を進めています。アメリカとの外交交渉のためとみられ、実態は不明です。しかし、年々その能力を強めているとみられます。他方で、旧ソ連などの管理の甘い核物質が流出し、「**核テロ**」に使われる危険性も指摘されています。

日本も核に依存している

日本は核兵器をつくらない、もたない、持ち込ませないという「非核三原則」をもっています。しかし同時に、アメリカの核兵器に頼る「**核の傘**」という政策をとっています。いざとなればアメリカに核を使ってもらおうという立場です。日本政府の中には、アメリカが核を減らしすぎると日本の安全が損なわれるので困る、という考え方が根強くあります。

2005年にノーベル平和賞を受賞したエルバラダイ国際原子力機関事務局長(当時)は、自国の核はよいが他国の核はダメだという国々の姿勢を「**タバコを口にくわえながら皆にタバコを止めろというようなもの**」と批判しています。



知っていますか？ ヒロシマ・ナガサキ

原爆がもたらしたもの

1945年8月6日に広島、9日に長崎に、アメリカが原子爆弾を投下しました。同年末までに広島で14万人、長崎で7万4000人の命が奪われました。広島の前爆は濃縮ウラン、長崎の前爆はプルトニウムによるものでした。原爆による被害は、熱線、爆風、放射線の3つによる被害に大別されます。とりわけ放射線による被害は、核兵器に特徴的なものです。

放射線の被害

原爆そのものが強い放射線を放っただけでなく、キノコ雲の下では放射性物質が「黒い雨」となって広範囲に降りました。人々は放射性物質を体外から浴びたり体内に取り込んだりして被爆したのです。市内で直接被爆した人たちのほか、後日市内に入った人たち（入市）や救護活動をした人たち、また当時のお腹の中の赤ちゃんも「被爆者」と認定されています。

放射線は、被爆直後に発熱、下痢、出血、脱毛などを引き起こし人々の命を奪いました。その後も今日に至るまでが**ん**、**白血病**、**甲状腺障害**などの病気を長期にわたり発症させています。被爆2世や3世も健康の不安を抱えています。遺伝的影響の解明はまだこれからです。

被爆者が訴えてきたこと

被爆者たちは、「ノーモア・ヒバクシャ」を合い言葉に、核兵器の廃絶を核保有国に求めてきました。同時に、日本政府による被爆者への国家補償を求めてきました。被爆者はいま全国に約22万人、平均年齢は76歳を超えています（2010年現在）。



在外被爆者

広島・長崎で被爆したのは日本人だけではなくありません。当時植民地だった**朝鮮半島**から日本での生活を余儀なくされた人たちや、中国から強制連行された人たちがいました。7万人の朝鮮人が被爆したといわれます。オランダなど連合軍の捕虜も被爆しました。また、被爆後に**移民**としてアメリカやカナダ、ブラジルなどに渡った日本人も多数います。

現在、これらの在外被爆者が30数カ国に4200人以上います(2007年現在)。戦後日本政府は、在外被爆者を援護の対象から外しました。しかし日本人たちが訴訟を起こし、援護を受ける権利を勝ち取ってきました。

グローバル・ヒバクシャ

核をつくり出す過程でも被害者が生まれています。世界でこれまで2050回もの**核実験**が行われています。1954年にアメリカがビキニ環礁で行った水爆実験では、日本の漁船「第五福竜丸」が被爆しました。アメリカはマーシャル諸島やネバダで、ソ連はカザフスタンで、フランスはポリネシアやサハラ砂漠で核実験を行い、現地の人々がヒバクシャとなりました。しかし、補償はおろか、実態もほとんど明らかにされていません。アメリカの**核兵器製造工場**周辺では汚染問題が報告されています。

さらに、オーストラリアやカナダでは核燃料のための**ウラン採掘**が、先住民に深刻な環境被害をもたらしています。イラクやコソボでは**劣化ウラン兵器**が使用され、放射線の影響が疑われる被害が出ています。



タヒチ(仏領ポリネシア)でフランスの核実験への抗議活動を続けてきたガブリエル・ティエアラヒさん。©水本俊也

ヒバクシャは
世界中に
いる

韓国人被爆者の郭貴勳さんが中国・廈門大学の学生に原爆について語る(2010年4月、ピースボートで訪問)



「核のない世界」は可能だ!



2010年5月、NPT再検討会議

廃絶こそが確実な道

今日核兵器が使われたら、どうなるでしょうか? アジアや中東で核戦争が始まれば、瞬時にして何百万人もが犠牲になります。飛び散る放射性物質は国境をこえ、やがて地球全体をおおって「核の冬」をもたらすと科学者は警告しています。核を持った方が安全、というのは幻想です。**核廃絶**こそが、もっとも確実な平和への道です。

NPTを通じた核軍縮

核不拡散条約(NPT)は、核保有5カ国に対して核軍縮の義務を定めています(第6条)。5年ごとに条約の再検討会議が開かれています。これまでに「核廃絶への明確な約束」とそのための核軍縮措置が合意されました。その中には、核実験を禁止する**包括的核実験禁止条約(CTBT)**を発効させることや、核兵器の材料物質の生産を禁止するための**カットオフ条約(FMCT)**の交渉を始め早期に妥結することなどが含まれます。

非核地帯

核兵器を禁止する協定を結んだ地域を「**非核地帯**」と呼びます。すでにラテンアメリカ、南太平洋、東南アジア、アフリカ、中央アジア、南極は非核地帯になっています。今後は、中東や南アジア、東北アジアで非核地帯が必要です。**東北アジア非核地帯**をつくるためには、「核の傘」にどっぷり依存した日本の政策を見直すことも不可欠です。



グローバル9条キャンペーン

ピースボートは世界のNGOとともに、戦争放棄を定めた日本の憲法9条を現代の世界に生かすための「グローバル9条キャンペーン」を行っています。2008年5月に幕張メッセ等で開かれた「9条世界会議」には3万人以上が集まりました。いま世界の軍事費は年間1兆5000億ドルを超えています。「核のない世界」を実現するには、兵器全般を減らし、戦争を予防し、非軍事での解決力を高めることが必要です。

核兵器禁止条約(NWC)を今こそ

「核兵器禁止条約(NWC=Nuclear Weapons Convention)を作ろう」という声がいま高まっています。核を持ってよい国と悪い国を分けるのではなく、核兵器そのものを禁止し、廃棄をすすめ、検証して違反をチェックするのです。NGOは、すでにモデル条約を提案しています。

2008年潘基文国連事務総長がNWCの協議を各国に呼びかけ、2010年のNPT再検討会議の最終文書にこの提案は盛り込まれました。



ジョディ・ウイリアムズさん

対人地雷やクラスター爆弾、生物・化学兵器は、いずれも条約で全面禁止されました。地雷禁止条約を導いたノーベル平和賞受賞者のジョディ・ウイリアムズさんは「市民が行動すれば、核兵器も廃絶できる」と述べています。

市民が世界を動かす

世界の市長たちのネットワーク「**平和市長会議**」(会長・広島市)は、「2020年までの核廃絶」をめざして活動しています。2011年1月現在、150カ国・地域約4500都市が加盟しています。

核兵器廃絶国際キャンペーン(ICAN)や**アポリジョン2000**といったNGOのネットワークもまた、NWCを求めて活動しています。

腰の重い日本政府

国連総会では、NWCの交渉を求める決議案が毎年提案され、賛成多数で採択されています。しかし、日本はまだ賛成していません。日本や各国政府に働きかけて、一刻も早くNWCの交渉を開始させましょう。

核兵器禁止条約
Now, We Can!
(NWC)

核兵器禁止条約を呼びかける潘基文国連事務総長。2010年8月6日、広島にて広島市広報課提供



おりづるプロジェクトの ピースボートの



おりづる
voyage



ヒバクシャ地球一周 証言の航海

ピースボートは2008年から「ヒバクシャ地球一周 証言の航海」として、広島・長崎の被爆者とともに船で世界を回り、各地で被爆証言をおこなっています。年に1回の地球一周プロジェクトに、2010年末までに計123名の被爆者が参加しました。

多くの国では、ヒロシマ・ナガサキについて聞いたことはあっても実体験は聞いたことも読んだこともないという人がほとんどです。今日まで続く放射線の被害についても知られていません。しかし被爆者が直接世界に語ることでできる時間は、限られています。

世界中の被害者と手を取りあって

世界の多くの核被害者や戦争被害者とも連帯しています。タヒチでは核実験の被害者、ベトナムでは枯葉剤の被害者、アウシュビッツではホロコースト生存者と交流してきました。中国やシンガポールでの交流では、日本による過去の侵略戦争を振り返りました。それぞれの経験に学びながら、過ちをくり返さず、核も戦争もない未来をつくるための協力を模索しています。

核廃絶のための働きかけ

寄港する先々では、市長に表敬訪問し平和市長会議への加盟を促しています。政府高官に面会し核軍縮の働きかけをおこなうこともあります。2008年10月には船から被爆者代表団を国連総会に派遣し、2010年6月には国連職員や各国の国会議員らを北欧で船に招き核兵器禁止条約のための洋上会議を開きました。2011年から12年には、中東非核地帯化のための「ホライズン2012」プロジェクトを進めています。



上、ベトナムで枯葉剤被害者と交流
下、ニューヨークで高校生に証言



「ヒバクシャ地球一周 証言の航海」 は、寄港する各国で 大きく報道されています。



船上では、被爆者と若者の交流が生まれています。

「被爆者」という存在を「特別な人」から「普通の人」に変えてくれた船での経験は、今私が核や戦争に関するニュースを見るたびに、その裏で人々のかけがえのない日常が壊されてるんだってという現実を思い起こさせてくれるようになりました。

島山澄子さん（埼玉県／イギリス留学中）

第1回「ヒバクシャ地球一周」の船に19歳で参加

09年8月6日には朝日新聞で取り上げられました。（下の記事）

「これからが新しい船出！」

とピースボート下船時に言った被爆者がいました。

「幼時の被爆で記憶が無い」といって活動に距離を置いていた人も、今では「核廃絶」市民運動のリーダー格になっています。

船上では誰も何も強制しないのに、何が彼らを変えたのか？

世界の現状に直接触れたこと、寝食を忘れて頑張る若者たちの後姿、きつと高齢の被爆者達は、そこから再び立ち上がる勇氣と使命感を得たのです。そう言う私もその一人なのです。

田中稔子さん（広島で6歳で被爆）

第1回「ヒバクシャ地球一周」に参加した103名の一人。

七宝作家。下船後、09年5月にはニューヨークのNPT準備委員会に参加



おひらき



佐々木禎子さんは2歳のときに広島で被爆しましたが外傷もなく、その後元気に成長しました。しかし、9年後の小学校6年生の秋に突然、白血病と診断され入院しました。回復を願って包み紙などで鶴を折り続けましたが、8か月の闘病生活の後、12歳で亡くなりました。この「サダコ」の物語は全国はもちろん世界中に広がり、折り鶴は核廃絶と平和のシンボルになりました。ピースボートではこの折り鶴にちなんで、被爆者の航海を通じた核廃絶への取り組みを「おひらきプロジェクト」と名付けています。

今、あなたにできること



知ろう! 伝えよう!

◆2本のドキュメンタリー

2008年の第1回「ヒバクシャ地球一周」から生まれた2本のドキュメンタリー映画は、核の問題を知り私たちにできることを考える教材として最適です。ぜひ観て、そして各地で上映会を開催してください。



フラッシュ・オブ・ホープ―世界を航海するヒバクシャたち―

広島で被爆しカナダに移住したサーロー節子さんの証言を中心に、ヒバクシャの航海を追った作品。原爆投下の実像を生々しく描きつつ、サダコのおりづるをオリジナル・アニメーションで表現した。各国の専門家の解説が、今日の核の脅威を浮き彫りにする。コスタリカのエリカ・パニャレロ監督。

【61分/英語(日本語字幕)/西語版もあり】



ヒバクシャとボクの旅

「被爆体験の継承とは何か」というテーマをストレートに描いた作品。幼少期に被爆して記憶のない「若い被爆者」たちが葛藤しながら活動を始める様を追う。カメラは、原爆について知識も関心もない世界や日本の若者たちの率直な言動にも向けられる。国本隆史監督。

【64分/日本語】

●2本セット上映権付き：30,000円/個人観賞用：3,000円

●オンライン注文できます <http://www.peaceboat.org/info/hibakusha/>

◆メルマガ「おりづる Voyage マガジン」 被爆者の証言や活動、世界の人々の声、核をめぐる最新情勢などをメルマガとブログでチェックしましょう。「ピースボートおりづる」で検索!

◆このパンフレットを普及してください―今日あなたが知ったことを、明日家族や友人に伝えてください

アクション! ◆おりづるバナー・プロジェクト

世界中から核廃絶のメッセージを書いた布を集め、パッチワークにしてバナー(横断幕)を作りましょう! それをもって世界を回り、どんどん大きくしていきます。核兵器禁止条約の交渉会議が始まったときに議長に手渡します。ぜひご参加を!

◆日本の政府や議員に働きかけよう!

外務省やあなたの住む都道府県の国会議員に対して、日本が核兵器禁止条約(NWC)に賛成して交渉を開始するよう手紙を書き、電話をかけましょう。

◆船に乗ろう!

おりづるプロジェクトが実施される回のピースボートの船旅では、被爆者とともに世界を回りヒロシマ・ナガサキのメッセージを伝える若者を世界中から募集しています。詳しくはホームページまたブログをご覧ください。



おりづるプロジェクトを応援します。

核兵器の恐ろしさを、悲惨さを、全世界の人々に訴える今回の旅は、
きっと、きっと世界の人々の心を動かします。私も一緒に航海しているつもりで祈っております。

吉永小百合さん●女優 (2008年9月5日)

〔これまでに応援のメッセージを下された方々〕

天野文子●元幼稚園長／鎌田實●諏訪中央病院名誉院長・作家／鎌仲ひとみ●映画監督／上山秀夫●元長崎大学学長
中西武志●社会起業家・カーボンフリーコンサルティング株式会社 代表取締役／肥田舜太郎●広島被爆医師／平岡敬●前広島市長／前田哲男●軍事ジャーナリスト
ローマ法王ベネディクト16世／ハンス・ブリンクス●元国際原子力機関事務局長(スウェーデン)／フィデル・カストロ●キューバ前国家評議会議長
ギャレス・エバンス●元オーストラリア外務大臣／ICNND共同議長／マイレッド・マクワイア●1976年ノーベル平和賞受賞者(北アイルランド)
ダニエル・オルテガ●ニカラグア大統領／クリストファー・ウィラマントリー●元国際司法裁判所[ICJ]判事(スリランカ)
ジョディ・ウィリアムズ●1997年ノーベル平和賞受賞者(アメリカ)

〔「ヒバクシャ地球一周 証言の航海」後援団体〕

広島市／長崎市／財団法人広島平和文化センター／財団法人長崎平和推進協会／日本原水爆被害者団体協議会(日本被団協)／平和市長会議2020ビジョン・キャンペーン
アボリション2000グローバル評議会／核兵器廃絶国際キャンペーン(ICAN)／核戦争防止国際医師会議(IPPNW)／国際平和ビューロー(IPB)

* 第4回「ヒバクシャ地球一周 証言の航海」に参加する9名の被爆者(うち1名は被爆2世)は、日本政府の「非核特使」となりました。

支援金をお願いします。

ピースボートのおりづるプロジェクトは、皆さんからの支援金によって支えられています。
支援金は、寄港地での証言プログラムの準備費用などに充てられます。

郵便振替用紙をお使いの方

支援金 個人 1口 2,000円
団体 1口 10,000円

* 通信欄には「おりづる」と明記してください

〔振込先〕

郵便振替 00180-3-177458
ゆうちょ銀行 019店 当座 0177458
口座名義 ピースボート

ファックスで申込される方

このページを切り取ってお使いください。

返信先 Fax 03-3363-7562

Email. info@peaceboat.gr.jp

お名前(団体の場合は団体名)

所属・肩書き(団体の場合は担当者名)

電話番号

メールアドレス

お名前を公表させていただきます。公表不可の場合は印を付けてください。

不可

メッセージ

支援金

個人 1口 2,000円 ()
団体 1口 10,000円 ()
合計 円

※上記の郵便振替またはゆうちょ銀行口座にお振り込み下さい

ファックス用紙としてお使いください



PEACE BOAT

ピースボートは、日本に拠点をもつ非営利の国際 NGO です。1983年の創設以来、国際交流の船旅を通じて、平和、人権、環境、開発の促進のために活動してきました。国連経済社会理事会との特別協議資格をいかし、国際社会に対する提言活動も行っています。



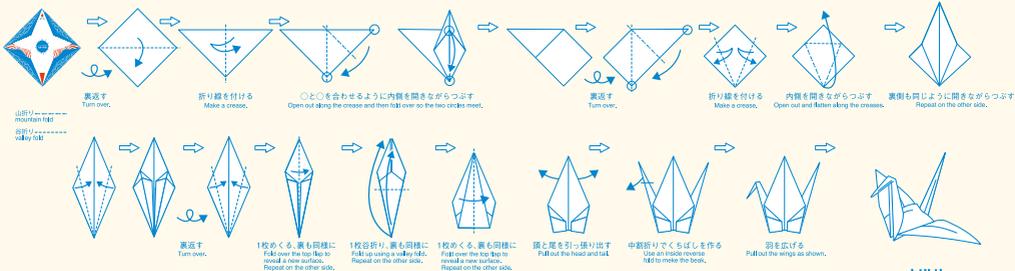
ピースボートは、核兵器廃絶国際キャンペーン (ICAN www.icanw.org) とグローバル9条キャンペーン (www.article-9.org) を応援しています。

●ピースボート
〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 3-13-1-B1
Tel 03-3363-7561 Fax 03-3363-7562
info@peaceboat.gr.jp

●ピースボートのおりづるプロジェクト (「ピースボートおりづる」で検索)
ホームページ <http://www.peaceboat.org/info/hibakusha/>
ブログ <http://ameblo.jp/hibakushaglobal>
マガジン <http://www.mag2.com/m/0001118107.html>

頒価100円 折り紙イラスト+ロゴデザイン cochaе / デザイン 成瀬潮

鶴の折り方 COCHAE



キリトリ

